

編集 環境パートナーシップちば
 代表 加藤 賢三
 事務局 千葉市中央区中央港 1-11-1
 (財)千葉県環境財団環境技術部
 環境啓発チーム
 電話 043-246-2180
 FAX 043-246-6969



♪2003年環境月間行事から♪

各地で進むパートナーシップ

流山市 市民環境フォーラム・流山 新美健一郎

市民環境フォーラム・流山では環境月間に合わせ、毎年6月に市の協賛を得て環境シンポジウムを開いてきました。発足10周年の今年も、流山市内の環境関連20団体に呼びかけ、各団体の活動をアピールする展示会と、持続的循環社会を農的な面から鋭い指摘と「地産地消」「フードマイレージ」など分かりやすい造語の生みの親である農水省農林水産政策研究所所長・篠原孝氏に「農的循環社会について」と題する基調講演をお願いしました。

各団体それぞれの立場から、環境保全・改善活動状況や、まだ市内に残っている森や川の自然景観の状況などをパネル・写真・映像・生物等で伝え、再認識させる視点の展示が多くありました。周辺市町村の環境団体や有機農業団体、関係行政機関からの参加も得、アンケート集計では展示・講演内容とも概ね好評でした。

ただ、広く参加を促すため流山産農産物を景品に用意しましたが、環境団体などに所属していない一般の方の参加が少なく、今後この「関心がもう一步」の分析を行い、環境活動の輪を広げることが課題です。まだやるべきことは多く、市民各自・地域社会・行政が協同して次世代のためにも、身近な環境保全・改善をより多くの方が取り組む必要性を強く感じます。

なお、当日参加の市長の提案により、7月28日から8月5日まで市役所内ロビーにてパネル等を再展示します。



白井市 白井市環境フォーラム実行委員長 辻川 毅

白井市民環境団体(7団体)と白井市が官民一体となって、北総白井地区の環境保全のため、全ての主体へ環境啓発事業を行い、底上げをする目的で、白井市環境フォーラム実行委員会を組織し平成15年2月に地球温暖化対策をテーマに第1回環境フォーラムを開いた。続いて、環境月間の6月28日(土)、白井市文化ホールで「(生活系)ごみの減量に挑戦しよう、ごみは宝だ!」をテーマに第2回白井市環境フォーラムを開催し、近郊の市町村の方々も含み150名以上の方々が参加された。

当日は、挨拶(市長、実行委員長)、白井市ごみマップ(不法投棄調査)と行政施策の説明、事例発表(寸劇1件、プレゼン4件)、質疑応答、交流会とパネル展示が行

われた。内容として参加された方々は一様に理解され、循環型社会の形成と対策への参加意識の向上ができたことと評価いただけた。これも、市民グループが垣根を乗り越え、行政と連携し真剣に取り組んだ結果であり、今後のネットワーク作りに大きく前進できた。次回の環境フォーラムは農業と環境保全をテーマに来年6月に開催予定だが、その間構築できたネットワークで他のイベントも計画する予定である。

市川市 市川環境フェアボランティア 岩崎 涼子

フェアの企画運営ボランティアに参加して2回目。11回を迎えたフェアを支えて来られた先輩のボランティアの皆さんの熱意に頭が下がります。男性も女性もそれぞれが持ち味を發揮して楽しく運営が出来ました。このような市民中心の活動が市政を活発にするとおもいますね。市川市では以前より市民の自発的活動を促し行政が必要な部分だけをバックアップするというパートナーシップを推進している事が私達の意欲に繋がっていると思います。フェアの当日来場人数が毎回の悩み。展示ブースで三十団体が市民の環境への意識向上の為に一生懸命工夫を凝らしました。親を失った「たぬき」の赤ちゃんに子供達がお母さんの様にミルクを飲ませていました。又、会場を盛り上げたのが「鉄腕アトム」の寸劇。これは市民の有志がシナリオ、衣装、出演と大活躍。今回のテーマが身近なゴミ問題と言う事も前年より100名の参加増でした。



市原市 NPO法人市原ネイチャークラブ 山口由富子

『水辺の観察会』から

縦に細長い市原市の、その中心を縦に割るように流れる養老川。市原市の歴史は、この養老川に世相を映し現況を露呈していると言っても過言ではないでしょう。その水辺に、環境月間にちなんだ6月14日、市の環境部との共催で養老川の上流と下流を観察する『水辺の観察会』を、一般市民を対象として行いました。

その日は、潮の関係で最初に『はまぐりの碑公園』から河口部に入りましたが、ベンケイガニやアシハラガニ、そしてチゴガニのハサミを振り上げての歓迎ダンスには、一同思わず破顔一笑。そしてゴミの量の年々の減少を確認し

ながらもまだまだ目立つ周囲の様子を観察し取水をした後に、養老川上流の粟又の滝へと向かいました。

危ぶまれていた天候は見事な立ち直りを見せ、涼やかな流れと鮮やかな緑陰は、カジカカエルの美しい鳴き声や若鮎の銀鱗のうねり、コヤマトンボの羽化など、様々な感動を私たちに与えてくれました。

市役所に戻ってから河口部と上流部の水を比較しましたが、前日までの雨の多さと引き潮時の水を検査対象としたことから、pH的には余り差異がなかったのですが、大腸菌の多さは紛う方なき河口部のそれでした。

水に親しみ、その水に環境を学ぶ。総勢42名の観察会は実り多いものとなりました。

船橋市 実行委員長 大西 優子

第6回船橋市環境フェアは、6月7日中央公民館で開催され、約3500人の参加で、「環境を守る努力は私から」をテーマに、市内約70の市民・企業・行政の団体と小中学校8校の活動発表を行いました。

館前のテントでは、メダカとカダヤシの違いを真剣に聞いている小学生や竹トンボづくり、三番瀬でとりたてのアオサのてんぷら、天然ガス自動車展示等々。館内では所狭しと各々団体の活動が生き生きとパネルや写真で紹介され、丁寧な説明も好評で熱心にメモを取る姿もありました。竹笛作りやどんぐりを使った工作、ケナフやチラシ利用のはがき作り、せっけん作り等々盛り沢山のワークショップも展開されました。

学校での環境活動の発表会は、大きな講堂が満員で熱気に溢れました。ごみ・リサイクル・水質調査・自然保護等々地域の人を巻き込んだ諸活動もあり、レベルの高いものでした。寸劇や歌をまじえた学校もあり、楽しく感動的なものでした。私達も勉強しなくてはと発奮した参加者も多かったようです。

環境フェアは、それぞれの団体の活動を学び合い親睦を深める場にもなっており、参加者お互いが地域環境を考える1日になっています。



**H15 第1回
エコサロン****温暖化防止へ 風力発電に期待**

～エコ・エコノミー実現に向けて～



平成 15 年 6 月 20 日、船橋女性センターにて定例のエコサロンが行われ、銚子市で風力発電設置に関わった環境形成研究所代表の島村隆夫氏をお招きし、千葉県における風力発電と環境問題についてお話していただきました。

土木技師であった島村氏は以前から地盤調査や漁港に流入する砂の問題でたびたび銚子を訪れていた。銚子は地質学的に大変興味深く、海に突き出ているのに、こんこんと湧く水は塩分を含まず良質で古くから集落を発達させてきた。2 億年前の地層がしっかり支え、もし大地震が来ても銚子はびくともしないだろう。そして収穫したキャベツが風で転がるくらい風の強い土地でもある。利根川対岸の波崎には風力発電機がある。

銚子に風車

世界では温暖化防止のための自然エネルギーとして風力発電が注目され、政府の強力な支援のもと、ドイツでは 2000 年末で 611 万 kW、アメリカで 249 万 kW であるのに対し、日本は 14 万 kW であったが、原子力発電の相次ぐ事故や核廃棄物への不安から原発の増設は難しい状況でまさに風力に風が吹いてきた感があった。2001 年 6 月に政府は 2010 年の風力導入目標を一気に 10 倍の 300 万 kW に引き上げた。

銚子でも風力発電が可能ではないか。風況調査では、辛うじて採算ラインの年間平均風速 6m / 秒。日本初の 1500kW の大型風力発電機を導入でスケールメリットをいかし、設置に踏み切ることになった。事業費は約 3 億、当初は新エネルギー関連の助成金を申請する予定であったが、時期等あわず、銀行のファイナンスを得て資金を調達し、2001 年 9 月運転開始にこぎつけた。後に述べるグリーン電力証書の活用などで、初年度の赤字はわずか 100 万円で済み、次年度は黒字になると予想している。

現在この近辺は、飯岡町に 850kW 5 基が建ち、銚子市には建設中のものも含め 04 年までに 15 基、波崎町に 10 基、合計 38450kW のウィンドファームとなる。

グリーン電力証書

風力発電はコスト的にかなり安くなったとはいえ、まだ火力発電に比べて割高だ。一方、環境に関心の高い企業であっても自前で自然エネルギーを調達することはさらにむずかしい。そこで風力電力の割高なコストをその付加価値と位置づけ、電力の取引から分離し証書の形で流通させることにより、発電事業者と企業を結びつける。電力会社は割高な料金を支払うことなく風力発電の電力を購入できるので、飛躍的な風力発電の増加が期待できる。

銚子の風力発電の電気はグリーン電力証書第 1 号としてソニーが大阪のソニータワービルで消費する電力の一部として、1 kWh 4 円程度で証書を購入している。実際の電気はそれぞれ地元の電力会社に売電したり、買電する。そのほかトヨタ自動車やアサヒビールなど多くの企業、自治体がグリーン証書の購入を始めた。

風力発電と公害

炭酸ガスを出さない自然エネルギーであっても、他の公害があってはならない。音については、風力発電機のプロペラはゆっくり回っており、大きな音ではないとのこと。ただ、圧迫感などを感じる向きもあり、低周波騒音の可能性はある。飯岡町では、テレビの画面が揺れるという問題が発生した。電波が反射して画面に影響が出るらしいが、共同アンテナやケーブルテレビで解決できる。鳥の衝突などは固定した場所で回っているのではほとんどないが、野生生物とのすみわけや、山の上に建設する場合の林の伐採などもあり、環境アセスはきちんとするほうが好ましいと思っている。

洋上発電への期待

風力発電に適した土地は多くはない。デンマークドイツなどでは、海の上に建てている。海は風の状況がいいことと、景観上も安定感がある。送電線までの距離や腐食防止など建設コストは高めだが、大きな機械を運んで建設できるというメリットもある。山間部では道路から作らなくてはならない。漁業とうまく調整が出来、法整備が整えば、銚子だけでなく多いに期待できる。

千葉県地球温暖化防止実行計画支援の提案

県は、H14～18 までの 5 年間で、県機関の温室効果ガス排出量を H12 と比べ 5 % 削減することを目標とした実行計画を作成した。警察や病院などを除き原則として県のすべての機関で適用され、電気使用量やコピー用紙や燃料の削減で達成しようというもの。県の地道な努力によっても計画は実行できるかもしれないが、ともすれば県民サービスの低下が懸念される。島村氏は、目標達成を支援する対策として、県が風力発電を活用することを提案した。県が所有している海辺で風のよいところを発電事業者に貸し、洋上風車を建設させ、その占有使用料でグリーン電力証書を購入すると、2000kW 4 基の風力発電機で県は温室効果ガス削減目標の 4 分の 1 の達成し、残りを他の企業に購入してもらうことで発電事業者も黒字になるというもの。また、このことは風力発電の適地が少ないことから有効なエネルギー政策と言える。(文責・広報部)

今年もさらにNPO推進の千葉県です。

横山 清美（環パちばアドバイザー）

「NPO活動推進委員会」

今年1月の「だより」にも千葉県のNPO推進について書かせていただきましたが、その後の進捗についてお話しさせていただきます。今年度はNPO推進指針による行動計画をNPO活動推進課事業として具現化していますが、予想した以上に時間を要する事業が多いようです。

私自身も引き続き「NPO活動推進委員会」の中で現在は、「県とNPOとのパートナーシップ事業提案制度」と「パートナーシップマニュアルの作成」を検討しています。

事業提案制度は、県庁全体がNPOから事業提案を受ける仕組みであり、NPO、県民の皆さんの意見を受けて、より良い、使いやすい制度にしたいと考え、タウンミーティング～NPOの力で変える千葉～を千葉市、茂原市、木更津市、柏市の4回開催し、その内3回は私も参加させていただき、皆さんのご意見をうかがってきました。お集まりいただいたNPOの方々にもなかなか趣旨をご理解いただくことが難しい事もあり、大変な作業でしたが、7月30日に知事発表があり、次年度の提案事業が8月1日から公募されることになっています。

「パートナーシップマニュアルの作成」は、みなさんからの事業提案が従来の行政だけで計画されてきた課題解決のための事業より、良いものになっていくためには、パートナーシップの確立が大事です。県庁内セクションがNPOと対等に課題解決していけるように、つなぐ役目のNPO活動推進課のワンストップサービスも忙しくなるわけです。環境パートナーシップちばが進めてきた行政とのパートナーシップの経験から、市民と行政がお互いの情報を共有し、課題解決に向けたテーブルにつくのがまずはじめの一歩だと考えています。解決に向けてプロセスを重視してじっくりお互い話しあいながら、学んでいくことが重要に思います。これらの体験がパートナーシップマニュアルの作成に反映していけばいいと考え、誰に対するマニュアルなのかから論議しています。8/30には松戸市で9/2には千葉市でタウンミーティングを開催する予定と、追い込まれた形で委員として力を傾け案作りに頑張っています。是非タウンミーティングに参加して、みなさまにもご意見をいただけますようお願いいたします。

ごらんになりましたか？「千葉県NPO情報ネット」

県内のNPO情報が満載されている『千葉県NPO情報ネット』<http://www.chiba-npo.jp>をごらんになりましたか？今年3月のお知らせ欄でもお知らせさせていただきましたが、開設して4ヶ月で4万件に届くほどのアクセス数があります。県のNPO事業の情報以外にも、「県からのお知らせ」には、市町村のNPO関連事業が296件も掲載されています。この数字が多いか、少ないかは別として、他市町村の活動にも参考になる事業が多くあると思います。また、「おしえてNPO!」は、NPOのことがQ&Aで理解できるようになっていますので、県の職員研修でお話させていただいた時にも、是非職員も活用してほしいとお勧めしました。「法人認証状況」「法人認証申請等の手引き」「NPO関係法令」など法人情報や、情報誌『さあ！NPO』も見ることができます。

環境政策課が環境学習事業をNPOに公募委託

今年度の県環境政策課がNPOに公募していた環境学習事業は7月末には決定されて、県の委託事業として今年度実施されます。内容については随時、この「だより」で紹介していきたいと考えています。この事業は、市民・行政がパートナーシップで課題を解決する方策の一つになってくれることを期待しています。NPOが生き生きと活動する千葉県を目指して！！

行政とのパートナーシップは、市民・行政の情報共有がはじめの一歩

7月10日、千葉県の情報公開のあり方を見直す、情報公開推進委員会が7回の会合の結果、提言案をまとめました。その中で「県民の知る権利」の理念を条例の第一条に規定し直すことや、県の審議会の原則公開についても条例に明記するよう求めています。

さらに情報公開制度の運用については、「情報公開推進会議（仮称）」を新設し、その中に専門家による「情報公開オンブズマン（仮称）」をおく等画期的なもので、今後条例の改正や運用指針などを作成することになります。情報公開が当たり前になることにより、一層の情報提供が期待されます。

NPOの情報も広報紙やWebなどを使って、活動の報告などの形で公開を勧めていかなければならないことは、もちろんのことです。行政とNPOがお互いに持つ情報が共有されることにより、パートナーシップが促進されていくのではないのでしょうか。

環境シンポジウム 2003 千葉会議は新しい企画がいっぱい!

シンポジウム実行委員会 企画部 桑波田 和子(八千代オイコス)

夏の日差しを受け、草木、生物が一年中でもっとも活動する季節となりました。シンポジウム実行委員会も、10月4日(土)、5日(日)の開催に向けて、エネルギーに動いております。

私は、昨年、県の「エコマインド養成講座」を受講し、その延長として、今回初めて実行委員会に参加しました。一日目の企画の担当になり、驚きや発見また緊張して学んでいるところから、シンポジウムの今をお伝えしたいと思います。

今年で9回目を迎えるこの会議は、5月2日の拡大実行委員会からスタートしました。テーマは「みんなで語ろう 環境のこと」と決定。新しい試みとして、シンポジウムに初めて参加する方にプレゼンの場をと、2日間になりました。

1日目は、ポスターセッション(展示説明)を通して、私たちの身近にある環境活動をお伝えし、一緒に参加しませんか?とお誘いするコーナーです。また大谷先生の基調講演はじめ、現時点の環境の一つを知り、考え、行動するために「アレクセイと泉」も上映いたします。

2日目は、県内外の環境保全、環境学習されている方々の交流の場とし、時間も充分用意しました。今年新たに、企業の環境保全活動の場として、第8分科会が加わります。

今は、各分科会でより充実した内容で楽しく参加していただきたいと、準備に追われております。両日のオープニングセレモニーも、おたのしみに!!

また、今年には実行委員会も学びましょと、6月29日「シンポジウム小史」「千葉県環境白書を読む」の公開講座が開かれました。ここで、シンポジウムの今までの歩みから、先輩方の熱い思いを引き継いでゆく責任、希望!を感じ、10月開催に向けて取り組んでおります。

市民、学生、企業、行政のパートナーシップにより、このシンポジウムから持続可能な社会に向けて、ともに活動の輪が広がってほしいなと思っています。どうぞ、近くの方も誘い下さい。みんなで参加して語り合いましょ!

「エコメッセちば 2003」は人材募集中

実行委員長 加藤賢三

「エコメッセちば」は人と人との出会いから生まれたもので、きっかけは環境

シンポジウム'95千葉会議です。今年で8回目の開催になります。これまで、3回の準備委員会を経て、2003年11月9日(土)の開催に向けて市民・市民団体、企業、行政からなる実行委員会が無事に立ち上がりました。

ちなみに、手元に残っている資料では2001年は企業の参加が約半分を占めていました。

今年は、実際、予算も大変厳しいこと、そして千葉県環境財団が事情により事務局を引き受けられないことなどで、「エコメッセちば 2003」の開催を断念することも含めて、検討しました。しかし、パートナーシップによる環境保全活動の推進という使命を持ち1996年から開催され、環境のための主要なイベントに育ち、千葉県に根付いたエコメッセちばの開催を断念することは大変惜しいと云うことになりました。

開催するにあたり昨年同様、環境パートナーシップちばの代表が実行委員長になるということで、加藤賢三が選ばれ、副委員長には宮崎勝美氏(社団法人千葉県産業廃棄物協会 副会長)岡本正和氏(千葉県環境政策課 課長)中田耕一氏(千葉市環境調

整課 課長)の三名に決まりました。実行委員会は、事務局に加え、企画運営部会、広報部会、渉外部会、出展管理部会によって構成されています。

エコメッセは、市民や企業、さらに行政のそれぞれの団体が環境に関して行なっている活動を紹介する「環境見本市」です。趣旨に賛同したグループが、とにかく楽しみながら、環境について考え、環境のために行動するきっかけになれるようなイベントを持ち寄ります。子どもから大人まで一緒に楽しめるもの、それらは市民団体や企業・企業団体が単独で開催するもの、パートナーシップにより協働で開催するものなど、多様な協働の取り組みを募集しています。

今年のエコメッセはいろいろなアイデアを持った多くの方々の参加により盛り上がり、単なるイベントに終わらず、次の事業展開につながる新しい形の環境見本市を実現しませんか。

当実行委員会はまだ立ち上がったばかりですので、多くの人材を募集中です。エコメッセの趣旨にご賛同の皆様のご積極的なご参加をお願いいたします。

去る 5 月 16 日、NPO 千葉自然学校の設立総会が千葉県庁内 NPO センターにおいて開催され、設立認可をもって開校することになりました。

当日開かれた第一回理事会では理事長に日本環境フォーラムの岡島成行氏が推され、他に理事には既に千葉県各地で自然塾などの活動を行っている、和田や三芳、千葉、館山、鴨川等の方々をはじめ、千葉県庁職員 OB や、JA、生協、民宿組合などの方々、24 名の多彩な顔ぶれになっています。

「環境パートナーシップちば」の前代表横山、副代表の高橋も理事に推されました。

自然学校はすでに活動されている自然学校や自然を中心にまちおこしをされている方々の知恵と情報を出来る限り寄せ合い、連携して普及啓発活動、利用促進の他、必要な事業を行い、県内自然学校の充実を目指すことにしています。

主には、地元の人材を中心にした自然体験指導者養成を行い、また自然、産物、産業、伝統文化、景観などを活かしたプログラム開発や調査研究などを行うことにしています。

このめざすところは「地域の活性化や振興に新たな活路を拓き、併せて生産、生活環境整備や自然保護につなげ、住んでよかった、また来たいといわれる千葉県になることを願って」（設立趣意書）という壮大な目的をもって出発

することにしています。

千葉県は、海、里、森と豊かな自然に恵まれ、全国的にもすぐれた農水林業を育んできました。この千葉は、千葉県はもとより、首都圏三千万の人々にとって、新鮮でおいしい産物の提供の地であると共に、自然を満喫し、感性を養う自然とのふれあいをもってこいの地です。

この地の利、人の輪をいかして四季を通しての出会いの場が、子供から大人まで、自然から学び自然と共に生きる技をより身に付けることが出来るように、将来を展望しながら、そしてそれを通じて、その地が一層息吹、活力がもてるように、より開かれた自然学校として地道に歩むことになるでしょう。

11 月 29 日、30 日子供と文化交流フェスタ

子供と文化、交流フェスタが各地の 40 人を越える実行委員を中心に、その企画が進められています。会場は千葉大学、実行委員長は宮本みち子千葉大教授です。シンポジウムやワークショップ、ポスターセッションなど、自由に参加者によって行う形式で行われ、今参加者を求めています。この中では「子供と自然」も一つのテーマになっています。

連絡先 043 - 290 - 8901 (加藤、村井)

千葉自然学校 設立へ

高橋 晴雄(環パちば副代表)

アダプト制度について

「環パちば」 代表 加藤 賢三

八千代市は、市民が愛着を持っている身近な公園や道路、河川などの里親になり、清掃・美化活動を推進する「環境美化里親(アダプト)制度」を初めて本格的に導入するということが、2003 年 7 月初旬の新聞に掲載されました。

アダプト制度は、1985 年に高速道路に散乱するごみをきれいにしようとアメリカで導入され、清掃美化活動として定着してきました。アダプト(Adopt)は直訳では「養子」と云う意味。本来、市などが管理する公共の公園や道路、河川、空き地などの場所を「子供」に見立てて、「里親」になってくれるボランティアとの間で養子縁組を結び、自主的な清掃・美化活動をボランティアに託すのがアダプト制度です。市民と行政との間でお互いに役割分担を決めて、合意書を取り交わし、両者のパートナーシップのもとに清掃・美化活動を進めていくものです。市民の役割は、環境美化活動の実施およびその報告です。それに対して、市は、清掃用具の提供、貸与、傷害保険への加入、アダプト制度の認定看板の設置、ごみの回収などを行います。

現在、この制度の普及は欧米には遅れていますが、国内でも 120 を越える自治体が加入するまでになりました。アダプト制度の波及効果は環境保全のみならず、まちづくりや地域への愛着などに広がりを見せています。実は、私の所属する NPO 法人八千代オイコスでは、花輪川について、市との間で、このたびアダプト制度の合意書を取り交わし、8 月からは傷害保険も有効になります。花輪川は都市型準用河川で八千代緑が丘駅周辺に源を發し、桑納川をへて新川にそそいでいます。やがて、その水は水瓶としての印旛沼へゆき、千葉県民の飲み水になります。私たちは、この花輪川をホテルもメダカも棲める八千代の水辺としてよみがえるように、「よみがえれ花輪川プロジェクト」と名づけて、自然観察会や清掃、草刈りをしています。この花輪川を、市民の楽しめる小川にしていくために、グランドワーク方式で市民が行政と事業所と一緒に力を合わせて行くモデル事業にしたいと願って活動を続けています。

今後の問題として、千葉県民の水瓶の浄化のためこ

のアダプト制度を、例えば、印旛沼および印旛沼に注ぐ河川について、広げていくことが出来るのではないかと期待しています。そのため、「環境パートナーシップちば」では、アダプト制度の学習会を準備中です。その節は多くの皆様のご参加をお願いいたします。

ちなみに、諏訪湖については、すでに「諏訪湖アダプトプログラム」として 2002 年に 2 月に募集開始。5 月初旬には 64 団体が参加し、10 月の時点では、延べ活動回数が 140 回、4,500 人の動員をしています。

千葉県里山の保全、整備及び活用の促進に関する条例の概要

人と自然との共生を目指して

千葉県農林水産部みどり推進課

千葉県の里山は、主に農林業を営む人々が暮らす地域に広がり、森林や谷津田、水辺等が一体となって美しい景観を形づくるとともに、多くの生き物たちの宝庫でもあります。

里山は、日常生活に必要な燃料源としての炭や薪、田畑の肥料となる落ち葉などを得るために人の手が加わり、身近に親しめる自然環境などとして適正に維持管理されてきました。

しかし近年、私たちの生活様式や農業の生産方法の変化などにより、森林と人との関わりが薄れ、放置されている里山が増えたり、廃棄物の不法投棄などによって里山の持つ良さが失われています。

里山は、私たちの生活にとって水害の軽減などの防災機能としての役割を果たすだけでなく、私たちの憩いの場や健康づくりの場、身近な緑との触れ合いや、子どもたちの環境学習の場に利用されるなど、重要な役割を担っており、現在及び将来の県民の貴重な財産です。

そこで、県では、土地所有者の理解を得ながら、県や県民、市民団体、土地所有者が協働して里山を保全、

整備し、また積極的に活用を図りながら、次の世代に里山を引き継いでいくことを目的として、都道府県では初めての「里山に関する条例」を平成 15 年 3 月 7 日に公布したもので、施行日は「広げよう 緑の大地 豊かな心」をテーマに開催された「第 54 回全国植樹祭」の開催日である平成 15 年 5 月 18 日としました。

また、同条例でこの日を「里山の日」として定め、誰でもが参加できる行事の実施などを通して、里山に対する理解や関心を高め、より多くの県民の参加を得て継続的な里山活動を進めていくこととしています。

なお、条例の主な内容としては、

県は里山の保全や整備、活用に関する総合的な施策の方向を明らかにした里山基本計画を作成する。

市民団体と土地所有者の間で里山保全に向けた協定を締結し、県はこれを認定する。これにより里山の無秩序な開発（産廃・残土等）の抑止効果を期待する。

県は認定した協定に係わる市民団体や土地所有者に対して、技術的・財政的な支援や情報提供を行う。ことなどです。

6 月運営委員会（6 月 20 日開催）

1. 学習会とエコサロンについて

今年度は「水」をテーマに、関係する講師を依頼。

今回は 8 月 23 日（土）、手賀沼で「学習会」と「船上トーク」を開催。

2. だより第 32 号は手刷り発行とする。また、32 号の記事内容を確認

3. 加藤代表より報告

千葉市環境審議会委員に、横山清美さんを推薦。
千葉県環境審議会委員に、加藤代表就任依頼。
当会の NPO 法人化の是非を検討する事業を企画。

4. 運営委員会の開催日程は原則毎月第 3 金曜だが、今後は「エコサロン」を開催する偶数月は第 3 金曜、奇数月は別途協議。

5. 当会の所有物と「だより」の保有状況を確認。

総務部より 運営委員会だより

7 月運営委員会（7 月 25 日開催）

1. 学習会とエコサロン（8 月 23 日）の詳細の検討。
2. ロードフェア「ちば建設フェア-2003」（8 月 24 日）への出展を決定。
3. だより 32 号は 7 月 28 日船橋市市民活動サポートセンターで手刷り後即日発送。
4. 今後の環パちばのあり方とイベントについて、加藤代表から提案。
5. 千葉大学「高齢化社会・環境情報センター」の次回セミナーは環パが担当。

お知らせコーナ

学習会 & エコサロン

ー環境パートナーシップちば主催事業

水をテーマに学習会とエコサロンを下記のように実施します。どちらかのみ参加も OK。

学習会

日時：8月23日(土)13時～15時

会場：我孫子市生涯学習センター

参加費：1000円(定員40名)

* 渡良瀬から見たこと 講師：宇井 純氏

* PRTR 制度について

環境省環境保安部 PRTR 担当 渡辺 真功氏

エコサロン

日時：8月23日(土)15時30分～19時30分

集合場所：我孫子市生涯学習センター

参加費：2000円(定員40名)船代食事代のみ

* 手賀沼船上見学

* 手賀沼漁協内磯間バッキ浄化装置見学

* 深山手賀沼漁業組合長との意見交換と食事

申し込み・問い合わせ：事業部 中岡

TEL & FAX：047-385-8950

Email：naka.hta@trust.ocn.ne.jp

シンポジウム「なのはな畑から見たこと」

主催：ちば環境再生県民の会

日時：8月30日(土)13時30分～16時

場所：千葉市民会館第3、4会議室

パネルディスカッション：

「千葉県環境再生なのはなプロジェクトに参加して見たこと」ほか

問合せ：TEL & FAX：047-385-8950(中岡)

「センス・オブ・ワンダー」清里フォーラム2003

日程：2003年10月27日(月)～29日(水)、

会場：(財)キープ協会キープ自然学校(山梨県清里)

主催：「センス・オブ・ワンダー」清里フォーラム実行委員会

共催：NPO 法人レイチェルカーソン日本協会

内容：シンポジウム、ワークショップなど

問合わせ先：TEL & FAX：03-3811-5511

Email：fwhn4674@infoweb.ne.jp

HP：www.geocities.co.jp/NatureLand/4632/

千葉県環境研究センター公開講座

開催日：8月27日(水)10:00～16:00

会場：千葉県環境研究センター水質地質部

(千葉市美浜区稲毛海岸3-5-1・TEL：043-243-0261)

(最寄り駅：JR 稲毛海岸駅、京成稲毛駅)

内容：「物質循環の実現に向けて」

～ふれてみよう房総の地質環境～

大地の成り立ちや、そこで起きている様々な環境問題等について、実物サンプルや簡単な実験等によりわかりやすく説明いたします。日頃の疑問や研究に関する意見等を交換する場でもあります。

募集人数：100名(申込先着順、参加費無料)

申し込み、問い合わせ

千葉県環境研究センター企画情報室まで

TEL：0436-24-5309 FAX：0436-23-3598

Email：kankyoken@ma.pref.chiba.jp

三番瀬モニタリング調査マニュアル作成事業公募

千葉県三番瀬プロジェクトチームでは三番瀬の鳥類、海生生物(底生生物含む)、植生等の生態系についてのモニタリング調査マニュアルの作成とそのマニュアルに基づく調査について、NPOから事業提案を募り、企画したNPOに事業委託する予定です。詳細は下記問合せ先、8月上旬千葉県HPに掲載予定

問合わせ：千葉県三番瀬プロジェクトチーム 工藤、北田

Tel 043-223-2434 Fax 043-224-9026

E-mail：sanbanze@mz.pref.chiba.jp

広報部より

1. 皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せください。
2. ホームページに団体のリンクや連絡先としてメールアドレス等の記載をご希望の方はご連絡ください。

広報部連絡先 FAX：047-450-8468(佐藤)

E-mail：motosato@pop07.odn.ne.jp

HP：www.geocities.co.jp/NatureLand/4632/

古紙 100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

申込先：千葉県環境財団 環境技術部

環境啓発チーム気付

TEL:043-246-2180 FAX:043-246-6969

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/

千葉県環境財団環境技術部環境啓発チーム気付

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)

会費を添えて入会します

氏名			入会年月日	
住所	〒			
TEL			FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円			

